

# 針葉樹会報

第 124 号  
2012 年 6 月



## 目次

追悼——鹿俣謙一君を偲ぶ……………	渋谷 一郎	2
訃報——佐藤政雄氏……………	……………	3
北海道に移住して2年……………	蛭川 隆夫	4
私の現役時代……………	前神 直樹	7
懇親山行……………	……………	9
学生との冬山散歩／縞枯山……………	前神 直樹	9
春の懇親山行……………	……………	10
——甲州高尾山・棚横手山……………	仲田 修	10
懇親山行案内……………	……………	12
会務報告……………	……………	12
臨時総会議事録……………	……………	12
90周年記念事業進捗報告……………	……………	13
会員消息……………	……………	15
新年会に寄せられたハガキ……………	……………	18
雑誌「アルプ」のこと……………	齊藤 正	18
久保田禮治先輩のこと……………	宮川 守久	18
三月会通信……………	……………	21
編集後記……………	……………	28

表紙写真：パルン・ツアンポー南部の5500m峰 撮影・中村保

発行日 2012年6月21日	<b>針葉樹会報</b> 第 124 号	編集人 小島 和人
発行者 針葉樹会 (会長 竹中彰)		〒241-0817 横浜市旭区今宿 2-60-1
印刷所 ヤマノ印刷㈱		会報幹事／小島和人、倉知 敬 井草長雄、川名真理

一橋山岳会ホームページ <http://huhac.com/>

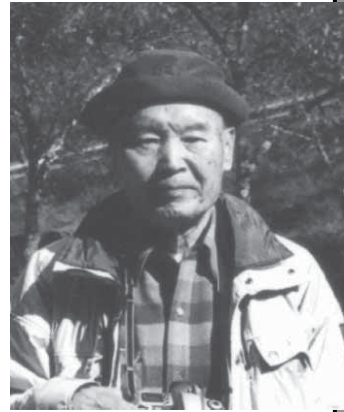
## 追悼——鹿侯謙一氏

### 鹿侯謙一君を偲ぶ

渋谷 一郎（昭28年卒）

八十歳代も後半に入ると、友人・知人の訃報が多くなり、また親しかった個人を偲ぶ文章を依頼される事が屢々である。思い起こせば、中村正司君、鹿侯君、小生らが商大予科に入学したのは1947年4月だったから65年の昔になる。既に往事茫茫として忘れた事も多いが、一年前に入学した小泉さん達の代に比べて、世相がやや落ち着いて来たとはいえ、まだ学内には復員学徒の軍服姿が目立ち、また都心の交差点には白ヘルのMPが巡查と並んで交通整理に立つなど、占領下の雰囲気が濃厚だった。

入学後、いち早く山岳部に入学した歓迎コンパでは、学部3年の最上級生として石井、中村、山崎、大島など錚々たる諸先輩が控えており、なんとも頼もしい存在感を匂わせて



いて、我々新入部員と対照的だった。だが少し経つてみると、山についてズブのしろうとは私だけで、中村は旧制中学時代から山岳部員だったし、鹿侯に至っては、米沢の旧制中学から高専（短期間の在学後に中退）にかけて個人山行で近隣の山にスキーを楽しんだり、飯豊山塊のあたりで沢登りを経験していたと知ったのだった。

少しあと、彼が国立の山小屋の管理人のような立場で常住するようになってからは、ずいぶん太田可夫先生ご一家と親密な関係を持ち、楽しい思い出もあったらしい。受験浪人時代に愛読した哲学書や文学書を部屋に持ち込み、いっぱしの哲学青年ぶりを示して、徹夜で話し合った記憶も懐かしい。小谷部全助先輩の山行記録や戦前・戦中の山岳人たちに

知られた『単独行』の加藤文太郎の名前も、鹿侯君から聞いたのだった。

登山道具も食料も無い無いくし、初の涸沢夏合宿も、頼もしい先輩たちの強力な指導の影響のもとに、大成功に終わった。初めて雪渓に立ちグリセードを強行した経験・ザイルで確保して貰った滝谷の岩登り……半世紀以上を経たいまでも、忘れられないトキメキを憶えるのである。

私は学部の卒業後、研究への道を選んだことで、山岳部の友人と殆ど関係を持たないままに、六十代の中頃までの坦々たる教員生活が続けた。それが思いがけないことに、70年代初頭からの第二次大学紛争で職責上から、活動家学生と対立する立場に置かれることになり、心身ともに疲れ果ててしまった。その私を、横山・望月・小泉を始めとする中樹会（後の）の面々が、温かく迎え入れてくれたのである。あれから、もう早いもので4分の1世紀ほどが経ってしまった。その間に亡くなったのが、小林・佐藤・小泉・横山・望月・荒砥・鹿侯の面々である。

会社の定年後の鹿侯君とは、伊豆の横山別荘で一夜を共にした時をきっかけに、新しく出直した交遊がはじまり、彼の最晩年の記憶が私の中に紡がれてゆく。会社の現役中から、すでに血管系の厄病を抱えていて激しい運動



中樹会のメンバーと大菩薩峠へ。前列左から 中村、海老沢、望月、鹿殿。後列左から 渋谷、南。1997年10月

はムリな様子だったし、彼自身もかなり慎重な生活ぶりで見受けた。この時期の彼がかなり気を入れて打ち込んでいたと思われる一つは、鎌倉の社寺の風景や名園の影像撮影で、それも同一の被写体を何年間も各シーズンにわたり一日かかりで撮るといふ凝りようだったらしい。あと一つの彼の晩年の生き甲斐は、その損得抜きでの奉仕活動だった。我々が知っている山小屋住まいの頃から、金に糸目をつけない洋楽名曲レコードの蒐集をやって

はいたが、定年後は、それと平行していわゆる『歌謡曲』を自分の声でカセットテープに吹き込み、その夥しいコレクションを携えて、近隣の老人施設を訪問する日常だった。「カノケンの歌謡曲」という名前で、待望している施設の住人たちも多かったと聞いていた。この一年ほど、中樹会当日に自宅を出てはいるものの、途中の経路を間違ったりすることがあつて、家族が心配し独りでの外出を控えるようになった。電話でなら本人の声を聞

### ■ 訃報

佐藤政雄先輩（昭和17年卒）の奥様（すみえ様）より「3月14日、94歳にて永眠致しました。長い間、誠に有難う御座いました」とご連絡をいただきました。謹んでご報告いたします。

佐藤政雄先輩のご逝去を悼みます。

上原 利夫（昭33年卒）

30年前（佐藤先輩は64歳）に、時々山を一緒に歩きました。久保孝一郎さんが世話役の同年代と上の方との山の会でした。今でも覚えているのは、雁が腹摺り山に登ったときです。山口館に泊まって、頂上に登り、富士山を眺めたあと、大峠からハマイバ前まで3時

けるといふ状況が続いた後、それも段々に間遠になっていった。時々には会合の件で電話連絡しても、ご家族が出てきて、眠っていると聞いては無事を知るといふわけだった。初冬の日、彼の訃報が入って、都合のつくメンバーで通夜の席に参列した。彼の人のなつかしい表情が祭壇の上から見ていた。軽いなまりのある彼の声が聞こえるような気がした。

心から、ご冥福を祈ります。

間の長いくねった下りで、佐藤先輩はサツササツサと歩いておられ、追いつくのが大変でした。

メンバーに近藤さん（昭4）、望月さん（昭13）、佐々木さん（昭14）、根本さん（昭17）、久保さん（昭17）、佐藤さん（昭31）が参加しておられていました。懐かしい面々です。

私は47歳でした。久保さんが頼りになる若手を誘われたのは、今になれば分かります。頼りない若手の私は、定年を迎えた方の姿に接し、覚悟していた寢床の上げ下げは、各自でやるのが当たり前。後年の私には参考になりました。会社で秘書にかしずかれていた近藤さんもまったく手のかからない方でした。

合 掌

## 北海道に移住して2年

蛭川 隆夫（昭39年卒）

川崎から札幌に移住したのが2010年6月30日。北海道の生活にもようやく慣れてきたこの頃です。そこに「北海道に移住して2年」の題名で「生活の変化を織り込みながら近況を綴」れとの編集幹事からのお達し。書くためのいろいろな切り口まで幹事は示唆してくれたのですが、そのひとつが「友人はどうか」「友人」を「団体」や「活動母体」に拡大すれば書けるかなと筆を取った次第です。

### NPO法人 北海道歩くスキー協会

最も大きな生活の変化は、スキーを始めたこと。「スキーでもしないと冬場に運動不足になりますよ」との小野さんのアドバイスを受け、まずはクロスカントリー・スキー（うろこ板スキー）を揃え、市内の公園や空き地のコースで汗を流していました。その過程でひよんなことから、表題の協会に加入するこ

とになり、その行事にも何回か参加。さらに、協会が市から委託された札幌雪祭りの行事運営にボランティア・スタッフの一員として参加しました。

そのうち「本格的な」スキーがしたくなり、シーズンも終わりが近づいてから急いで道具に投資しました。爾来、小野さんなどの指導を受けて少しは進歩したと思いますが、まだまだ技術は未熟で急斜面での恐怖心も払拭できません。それでも、2シーズンを終了して、山スキー7回、ゲレンデ・スキー8回の実績（クロスカントリー・スキーは10回）。練習コースが大半とはいえけっこう打ち込んだものですが、スキーで目指したいピークやコースは数知れず、「10年早く移住していれば」と悔やんでいます。

そんなわけで、「竹中さんの岩登りは心配しませんが、蛭川さんのスキーは心配（痛）の種です、小生の酒量が増えます」と本間さんからご懸念のメールを頂きましたが、大げがでもない限りは初期投資を回収すべく続けるつもりです。

### h y m e n i

おそらく、Hokkaido Yama Mailing List の略。低山ハイイクから日高の沢登りや山スキーまでの、記録あり、紀行文あり、情報交換あり（林

道や沢の状態、高山植物開花、積雪、雪解けなど）、登山論あり（最近のテーマは、GPS使用の是非）のメーリング・リスト。本州の会員もたくさんいます。ある人から教えられて加入しました。読んでいると、うらやましくなり「ああ、10年早く移住していれば自分もこういう沢登り、山スキーができたかもしれない」と、またはやフラストレーションを感じるのです。通称ツボ岳（居酒屋「つぼ八」でのオフミ（「オフラインミーティング」の略だそうです）も活発に行われていますが、まだ私は未登頂。

### 静内山岳会

移住前から入会していたのですが、北海道に来てから、会員諸氏と昼夜お付き合いです機会が増えました。静内は太平洋岸の町です



十勝連峰の望岳台にて。  
背後は美瑛岳



が、会員には札幌在住の人も多いのです。

静内山岳会の行事に参加して、冬のペラリ山に登りました（白銀の日高山脈を眺めていたく感激）。それと、ペテカリ岳（地元では、ペテカリと濁ることはしません）。毎年、春と秋に行うペテカリ山荘の大掃除と登山道の整備（チシマザサ刈り）を兼ねたボランティア登山です。昨年のGWのオプタテシケ山は、麓にテントを設営しただけで、豪雨で撤退。

最大のチャレンジは、戸蔭別川本流を遡行して戸蔭別岳を経ての七つ沼カール。本格的な日高の沢登りを体験できたのはよかったです。5日間昼夜ほとんど雨で、久しぶりにぐしよぐしよの衣服を絞りました。予定していた幌尻岳往復、日高の山座同定、憧れの七つ沼での高山植物・星空・ナキウサギ観察——すべて駄目となりました。すごかったのは藪漕ぎ（稜線のハイマツ漕ぎ、源流部の小沢のナナカマド漕ぎ）。同じ頃ほぼ同じコースを辿ったパーティーがhym1で「5000歩進むのに2時間20分も費やし」と投稿したものです。すっかり消耗して帰宅したら、背中に食いついたマダニを発見。血を吸って丸々としていました。ライム病が心配であわてて病院に駆け込み、麻酔を打ち、皮膚ごと切除。日高の奥深さ、ワイルドさをつくづく実感しました。

小野さんには、いろいろ連れていってもらいました。最初は、「札幌市民になったのですから」とその名も札幌岳。その後も、手稲山、得舞暫山、オロフレ山、剣山（佐藤久さんも参加）。北海道ではありませんが、小野さん主催の東北震災復興祈念登山で、宮城県の船形山と泉ヶ岳にも登りました。同じく暑寒別岳&雨竜沼湿原の計画も案内状を頂いたのですが、他用と重なり断念（夕張岳などとともに今後の課題となりました）。

個人では、藻岩山（累計4回）、手稲山（札幌トーチン会で来札した本間さんと再登）、旭岳（佐藤久さんと）、摩周岳（息子夫婦と）。昨年の黒岳・旭岳は、北海道新聞社主催の「大雪山山開き登山会」に参加して縦走。期せずして、今年来道されるトムラウシ遠征隊（竹中さん、本間さんなど6名）の延長戦の下見となりました。蓬莱山と境岳は、札幌近郊の低山ですが、クロスカントリー・スキーを履いて往復しました。十勝連峰の三段山は、山スキーで登りましたが、ばててしまい二段のピークで引き返しました。

#### NPO法人シマフクロウ・エイド

個人会員になりました。このNPOは、菅野正巳という方が、ABCニュース東京支局の仕事を手放して北海道に移住し、絶滅危惧種

であるシマフクロウの保護を目的として設立したものです。2012年度の事業予算は、わずか450万円。そのうち約150万円は、セブナイレブン記念財団の寄付（これまでファミリー・マートを員にしていたが、これを知ってからはセブナイレブンも利用するようになりました）。それにしてもなんと苦しい財政事情です。関心ある方のご加入を（個人会員の年会費は3000円）！

同じフクロウ科のエゾフクロウ（フクロウの亜種）には、道東の標津町を旅した昨年の冬、深い森の中で出会えました。そのときは、知床まで足を延ばして、オホーツク海の流水の上のオジロワシとオオワシを漁船から観察しました。次の旅では、ウミガラス（オロロン鳥）やエトピリカ（森繁の「知床旅情」では「ピリカが笑う」と歌われる）にお目にかかりたい。

#### ふゆみずたんぼ

同じく野鳥保護ですが、こちらはマガン。美唄市の宮島沼は、マガンの渡りの中継地（ラムサール条約登録湿地）。そこでのマガンの「ねぐら入り」「ねぐら立ち」観察ツアーに参加して、「水面がはがれるような」と形容される大規模なねぐら立ちを見ることができました。

宮島沼は、近年、乾燥化と富栄養化が進んで（周辺の湿地が農地化したため）、マガンの生息環境が脅かされています。これを防止してマガンのねぐらを保護する事業が「ふゆみずたんぼ」（漢字で書けば冬期湛水水田）。300年も前からある農法なのですが、宮島沼の水を収穫後の田圃に導き、冬の間も湛えまです。そうすると、水中の富栄養はイネに吸収され、落ち穂は分解されて有機肥料となるので、肥料は少なくてすみます。また、くわしいメカニズムは省きますが、害虫や雑草の発生が抑えられ、除草剤・殺虫剤の使用が大幅に抑制できます。同時に、沼の乾燥化が防止され、さらに浄化された水を沼に戻すことで水質が浄化されます。

いいことづくめのようですが、実は、農家はマガンを害鳥視していて（秋まき小麦の苗をマガンが餌としてしまう）、「ふゆみずたんぼ」の意義を理解し協力してくれる農家はまだごくわずか。協力的な農家をサポートするために、その田圃100㎡の区画「オーナー」として25000円を先払いし、秋に収穫米（豊作なら50kgか）をお持ち帰りする仕組みがあります。熱心に沼の危機を訴える「宮島沼水鳥・湿地センター」のスタッフに感動してオーナーになりました。月例の諸行事（農作業体験、お祭り、米粉パスタや道産小麦の

うどんの試食会など）もあり、これからの宮島沼通いを楽しみにしています。

### 噴火湾考古学研究会

北海道に來たら考古学（特に縄文文化、アイヌ文化、オホーツク文化の起源）がおもしろくなり、入門書を読みあさり、各地の遺跡や博物館を回っています。病が高じて受けた「考古検定」と「縄文検定」。後者の試験会場が、噴火湾に面した伊達市。ここは亘理伊達の殿様が藩士や領民を引き連れて明治の初めに入植・開拓した町だが、国の史跡になった縄文の東黄金貝塚遺跡でも有名。検定試験の終了後、試験会場で出会った地元の考古学オタクに誘われ、この4月に噴火湾考古学研究会に入会。定例の集まりに札幌から彼の地に通うことになりました。さっそく8月の縄文まつりの「シャーマン・ショー」で一役が割り当てられました。あいにく出羽三山巡りとかち合いました。本間さん主催の山行とあれば欠席するわけにもゆかず、縄文の仮装で踊り狂う楽しみは来年まわしとしました。

北海道は、遺跡や博物館をたくさん抱えているが、いかんせん広すぎる（東北6県よりも広い）。元気なうちにとても回りきれそうもない。そこで、東大名誉教授（考古学者、司馬遼太郎の『オホーツク街道』に実名で出て

くる）がマスターをやっている小さな居酒屋を時々訪問しています。北海道産の芋焼酎（北海道でも黄金千貫が取れるんです！）を飲みながら、考古学の話聞くのが楽しんでいます。

### NPO法人 増毛山道の会

このNPOは、江戸時代に開削された山道（サンドウと発音）を復活させようとしている会です。「道内山道サミット」という集まりに出席したとき、その趣旨と熱意に打たれて入会したものの、まだ増毛の方に出かけるチャンスがない。

山道だけでなく、フットパス・ウォークというのが全道で盛んになっている。垂直歩行の能力が衰えるのも間近だから、そろそろ水平歩行の遊びに転向しようか。最近、新聞社の企画で「ほっかいどう100の道」も選定されたので、早速そのひとつ「イザベラ・バードの道」を歩いてみようかと気持ちがあがりますが、さすがに無謀か。函館から平取まで、570kmもある！（2012・5・14記す）

最後に日常生活にふれます。

夏は快適だし、冬もおそれていたほど寒くはない（マンションだからかもしれない）。もつとも、移住した年の夏は、平年より暑かつ

たらしく、市内量販店でエアコンが品薄になった。昔の冬の寒さはこんなものではなかったと言う道産子も多い。北海道には梅雨がないというのも、昔のこととなりつつある。

道路は広いし、渋滞は少ないし、駐車場探しの苦労もあまりない。図書館・博物館・美術館・映画館・音楽ホールなどはほぼ空いていて、ゆったりした時間を過ごせる。

物価では、確実に東京より安いのが不動産価格（それに連動する駐車場代金や固定資産税）。公共料金はむしろ高いか。市営地下鉄の初乗りは200円だし、市営バスはない。後背地に山が多いのに水道料金も高い。光熱費も、それほど安くはない。

全国展開の大手スーパーの商品の価格は、首都圏とあまり変わらない。生鮮食料品は、若干安い程度だが、しかし文句なしに鮮度がいい。5〜6歳も走れば中央市場があり、早起きしてその日の競り品を物色できるのはうれしい。ちよつと郊外に車を走らせて、農産物の直売所や石狩浜の漁港の朝市を回るのも楽しい。食生活は、確実に豊かになった。

## 私の現役時代

前神 直樹（昭51年卒）

大学入学は1971年、一年の留年を経て卒業する76年までの五年間ほぼ山に明け暮れた学生生活だったと言っても過言ではない。現役の4年間合計で五百日間、山に入っていたので、山に登っているかアルバイトしているかという、今の学生にはとても許されないような日常だった。

高校時代、同級生とたまたま登った西穂の独標（これ以上は素人入るべからずのガイドブック指示に従う）で見た山と雲の織りなす何ともいえない光の綾に魅了されて、大学に入学したら山岳部に入ろうと決めていた。入学式の後、程なくして守衛に聞いた山岳部の部室を訪ねたところ、そもそも部室が一軒家風（現在の部室以前の建物）であったことも驚いたが、そこでお茶をこちそうになったのは今でも忘れられない。当時4年生だった井草さん、3年生だった羽部さん、それよりずっと上だった松尾さんが歓待してくれたのだ

が、部室のようなどころで家庭じみた事をすることに驚かされた。

入部の一年前、甲斐駒ヶ岳で起きた遭難事故によって部の活動は停滞気味だったが、私のほか高橋と工藤が一年生として入部したことで合宿も再開された。5月の新人山行は鳳凰三山だったが、全く雪の無かった初日、南御室で泊まった晩に雪となり、翌日は一面の雪景色。白鳳峠から広河原に下山したが、山登りに対してかなり強烈な印象をもった。

夏合宿は涸沢から槍を経て剣へ縦走、内蔵助谷から下山したが、この合宿は辛かった。涸沢定着の時、工藤が穂高吊尾根の途中から幕営地に下山中、雪渓で滑落、目の上あたりを何針か縫ったが合宿はそのまま続行、確かに三俣蓮華の小屋で抜糸したと記憶する。そんな状態でも山行が続いたということ、一人あたり担ぐ荷物が増量となりテントの中で高橋と脱走しようかと話したぐらい辛かったという二つの事で忘れられない山行だった。

秋にボート部を引退された上田さんが4年生で入部、上田さんにしてみれば山登りを教えて貰おうとの軽い気持ちだったと思うが、当時の上級生がそれぞれの事情で山から遠ざかる中、一年生3名と期せずしてリーダーになってしまった上田さんという少々アンバラな構成での山も続いた。ただこのメン

バーで行った奥秩父全山縦走が自分にとつては多少山登りに自信がでてきた山であったと記憶する。この1971年末、中川孫一さんの遭難があつて何回か丹沢方面に捜索で出かけたが、この時ずいぶんの数のOBとも話をさせてもらい、層の厚さを実感している。12月の冬合宿は梅池、梅の森ゲレンデでテントを張って冬山幕営に慣れるというものだったが、ほぼ一週間ゲレンデにいながらリフトに乗ったのは最終日だけでスキーは一向に上手くはならなかった。しかし雪のテント生活だけは十分過ぎるほど満喫した。

2年になると、兵藤、加藤、元井、藤田、増井、大枝が新入部員として入部、部の活動は活発となる。5月には大勢のOBにも参加してもらつて内蔵助谷で定着合宿を行い、長駆日帰りで剣岳にも登っている。このあたりから山にのめり込んで行つたような気がする。針葉樹14号を読むと、当時合宿をめぐる色々議論をしていたようだが定かには思ひ出せない。合宿であろうが無かるうが、山は単純におもしろいと感じていた。すでに五年生だった上田さんと大勢いた一年生と山に遊び、アルバイトの金をつぎ込んでいた。

3年次の終わり3月の春合宿は白馬岳だったが、この山行が一つのまとめだったような印象がある。3年時には佐藤、松田、浅田、



蝶ヶ岳頂上で。左から藤本、前神、元井。1973年4月

若林が、さらにワンゲルから藤本が3年生で、そして学士入学で古橋さんが入部、部はやつとまともな姿になってきた。夏合宿も冬の槍穂高を念頭に置いて涸沢で定着、実力に合わせて滝谷や奥又白でクラシックルートをとこなしてゆく。そのあと縦走も行って、斬新な山ではなかったがオーソドックスな合宿はこなせるようになっていた。個人山行も盛んに行われた。冬は当初の目標通り槍ヶ岳を目指して表銀座を辿ったが、西岳のテントからの槍ヶ岳アタックは失敗、敗退となった。悪天

候ではあつたが、おそらく冬の北アルプスとしては普通のものであり、この時の実力を示した結果だつたと思う。下山してOBである中島さんに結果を報告したが、登る意欲とか体力、技術の不足を散々指摘された。春合宿ではスキーを持って高嵐尾根から雲の平に入り、藤本、加藤は黒部源流から黒部五郎にスキー登山をおこない、下級生は水晶から赤牛往復、積雪期の北アルプス中部を遊んだ。

4年時、近藤、坂牧、永田が入部、合宿も山城がかなり広がり、夏は日高の縦走に足を延ばす。山も辛かったが、札幌で受けた大塚さん、小野さん等のOBの歓待が忘れられない。この頃は沢登りも随分多くなつており、若林が行つた利根川源流も忘れられない沢の一つになっている。冬は前年に失敗した槍ヶ岳を再度目指すがルートは鏡平から双六に出て笠ヶ岳を往復後、槍ヶ岳登山、南下してキレット手前で幕営、北穂高を往復の後横尾尾根を下山という計画だった。計画は完遂したものの横尾尾根の末端で気の緩みかパーティーがバラバラになるような失態もやつている。

ともあれ何とか大きな事故は起こさず4年間を終えたが、事故が起きるか起きないかは紙一重だと思つづく。現役時代滑落回数



か——残雪の飯豊、滝谷第一尾根、笹穴沢、春の前穂高北尾根、思いだすときりが無いぐらいだが決定的な事故にはならなかった。緊張感さえあれば事故は無いと信じ、攻撃は最大の防御なりを旗印に合宿は果敢に行った。確かに重大事故は無かったが、どこかで起きていてもおかしくはなかった。今から思いだせば冷や汗ものだが、運が良かったのかも知れない。

まだどのの大学山岳部も活発だった頃で、毎年多くは無かったが新人が入部してきてそれなりの部の体制をとれていたことも部の運

## 懇親山行

### 学生との冬山散歩

前神 直樹（昭51年卒）

学生に冬山の初歩を知ってもらおうと、2月25—26日の週末蓼科山への山行を計画する。

その2週間ほど前、部室にあるものは徹底

営が出来た要因だった。現役時代の活動は上向きで終えられたが、その間どれだけのOBにお世話になったのか分からない。自分が現役の部員から現役のサラリーマンになって、つくづく当時のOBが我々部に割いてくれた時間と労力の大きさを認識した。そのエネルギーはどこから来るのか、種の保存に向かうDNAなのかもしれないが、大勢のOBから受けた莫大な支援はいくらかでも現在の現役に返してゆきたい。それがお世話になった皆さんへの恩返しだと思っている。

的に使おうと一緒に行く予定だった兵藤も一緒に部室に集合して装備庫を物色する。ただ登山靴だけは新たに買わざるを得ないが、OBの方々にはアイゼン等でないぶん手数を掛けた。

結局兵藤君は親御さんのこともあって不参加となり、前神+町田/小宮山にての山行となる。

25日国立のスーパーマーケットで集まって食料を買い込み、勇躍中央高速、茅野に向かう。



縞枯山にて。 町田君(右)と小宮山君

天気も良い。

茅野から蓼科温泉郷に向かい、予定では蓼科の南にある女神茶屋の駐車場に車を止めてテントを張る予定だった。親湯も過ぎて車道にもかなり雪が増えてきた頃、タイヤもスタッドレスではないためチェーンを付けようとしたが、これが付かない。持っていたチェーンは古いものでチェーンを留めるゴムが経年劣化でことごとく切れてしまう。チェーンをつけずこのまま進むことは自殺行為となる。登山口にも届かないというのは恥ずかしい限りだが仕方ない、ともかく戻る。ピラタスに

は通年バスが行くというので、であればずいぶん計画変更だが、翌日は縞枯山に登ることとする。雪がないところまで下がって道沿いの公園に車を止め、幕営。宴会というわけではないが、ささやかに夕食をとる。

翌日学生二君は寒いと言って、4時頃には起きてしまう。

バスにはあまりに時間が早く、一旦茅野駅まで車で下り、駅でバスの始発8時前まで時間を潰す。バスでピラタスロープウェー乗り場まで約一時間、乗場は登山客とスキーヤーでいっぱい。

ロープウェーを下りるとそこは雪世界。学生もこんな雪を見るのは初めてとて、雪の白さにずいぶん印象深いらしい。10時に登山開始縞枯山荘の前から北斜面の道を辿って縞枯山に登るがアイゼンを使う必要はない、すれ違う登山者は例外なくアイゼンかスノーシューをつけているが、なぜそんなものをつけているのか良く判らない。縞枯山の山頂から南側を下りて結果的に一周する形になったが、冬山の初歩の初歩としてはこんなものか。約2時間の雪山歩きだったが、学生には随分新鮮だったようである。アイゼンを使うところもなく、蓼科山に比べると冬山を学ぶ効果のほどは半減だが、遠くの南アルプスも雪一色で雪の印象だけは強かったようである。

## 春の懇親山行

### — 甲州高尾山・棚横手山

仲田 修 (昭36年卒)

2012年最初の懇親山行は3月4日(日)総勢11名で甲州高尾山に登った。

懇親山行幹事がこの山を選んだ理由は、富士山、道志御坂山塊、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父と、息を吞むような眺望が得られるので、山座同定を楽しもうという配慮からだった。

しかし、当日は雨こそ降らなかったものの今にも降り出しそうな生憎の天気だったため、幹事一同のせつかくのお膳立てもふいになつてしまった。

遠藤、三井、小島、本間、佐藤(久)、中村(雅)、金子、仲田の針葉樹会員8人と現役山岳部員の小宮山君を合わせた9人は、7時26分高尾始発小淵沢行きの電車に乗り込み、8時40分に勝沼ぶどう郷駅に到着。佐藤先輩はすでに早い電車で到着して我々を待っていた。次の電車で来る現役山岳部員の町田君の

到着を待つ時間を利用して今日の会費4千円の徴収が行われた。

そろったところで直ちに3台のタクシーに分乗する。歩けば1時間50分かかる大滝不動尊までの距離をわずかに20分足らずで一気に登り切ってしまう。ほとんどの人が積雪による悪路を予測してスパッツをつけていた。出発前に一列に整列して久々に参加した金子さんのカメラにおさまった。今回しんがりをつとめた金子さんは終日写真を撮りまくっていた。その中から49点にのぼる臨場感あふれる写真を選び、それに味わいのある文章をつけてアルバム仕立てにしてくれた。

9時45分いつもの通り本間さんをトップにして登山開始。まず仁王門をくぐると急な石段が待ち構えている。これを登り切ったところが大滝不動尊奥宮である。山奥に鎮座している割には派手な色使いの建物である。今日の無事を祈って手を合わせる。

本堂の脇から登山道に入る。本堂の裏手にある大滝は完全に凍結していた。山の寒さの厳しさを思い知らされる。小気味のいいテンポを刻んで本間さんは隊列を引っぱっている。箒で掃いたようなと金子さんが描写する、うつつらと雪が積もった山道を20分ほど黙々と登ると突然林道に飛び出る。右に行けば展望台との標識があったが眺望は得られな



遠藤、三井、町田、小宮山、中村、佐藤、仲田、本間、佐藤、小島

3月4日 9:45 大滝不動尊にて、いざ出発 (撮影: 金子)

いということだ。林道を左へ向かう。10分ほど歩くと右手に富士見台への登山道の標識が出てくる。登山道に入る。薄暗い樹林帯の中を長い隊列が整然と行く。その様は「まるで

マ僧の行列の様でおのずと祈りがわきあがる」と金子さんは描写している。黙々と登ることさらに20分で稜線に出る。

ここが富士見台だ。雲が重く垂れ下がっている。ところどころ霧も出ている。晴れていれば目の前に広がるであろう山々の眺望がまったく得られないことを悔やむばかりだ。ここで今日最初の休憩を取る。歩き始めてから50分だ。尾根道を左つまり北に取る。急登をすること30分で棚横手山山頂に着く。標高は1306m。今回の山行の最高地点だ。やはり眺望が効かないので一息入れただけで富士見台まで引き返しそのまま南に直進する。この辺りは4回も山火事があったとのことだ。斜面には木が一本も生えていない。軽いアップダウンのある枯れ草の尾根道を40分ほど快調に歩くと標識に出会う。ここが甲州高尾山だ。まったく山頂らしくないところだ。標高も1091mと棚横手山より低い。

ここで昼食をとる。佐藤先輩は早速ガスコックを取りだし現役部員にコンロの組み立て方、使い方を伝授。本間さんが手塩をかけて仕込んでくれたトン汁を温め、器と箸付きで全員に振る舞う。手伝いもせずただ食べるだけの人もいる。気温零度の寒さの中だけにこれ以上のご馳走はない。「旨い」とどこからともなく声が上がる。本間さんの心こもった



13:00  
甲州高尾山山頂で。前列左から 町田、佐藤、小島、本間。後列左から 仲田、遠藤、三井、小宮山、佐藤、金子

もてなしにいつもより深く感謝！ その上、佐藤さんの入れてくれた熱々のコーヒーまで付くのだからだからまさに至れり尽くせりのもてなしだ。再び金子さんに集合写真を撮ってもらって出発だ。

これから先は1時間40分の急な下りが待っている。疲れてきたせいかわ列が3つぐらいのグループにバラけかける。急な下りが足にこたえる。本間さんは時々止まっては隊列

の乱れ具合を確かめながら下る。中央線のトンネルの上を横切る。1時間ほど下ると送電線の鉄塔のあるところに着く。ここが柏尾山だ。ここで一息入れる。あと40分の最後の下りが待っている。

終着点の五所神社(すぐ横が国宝の大善寺)に到着したときは、先頭組と真ん中組と後続組の3つの塊にバラけていた。全員揃ったのは2時30分だった。雪もほとんどなく道も乾いていたのでアイゼンやスパッツのお世話にならずにすんだ。ここでタクシーに分乗。5分ほどで勝沼ぶどう郷駅に到着。駅の売店で思い思いにワンカップのワインを買い求め、今日の無事を祝した。暖房の効いた電車の人になると、いつしか心地よい眠りに落ちていた。

反省会は八王子駅近くの鶏料理の店「坊の房」で行なわれた。金子さんを除く8人が現役部員の2人を囲むように座り、話は大いに盛り上がり酒のピッチもまた上がった。今朝集めた会費では足りないかと、幹事が慌てて臨時徴収する場面もあった。今回もまた思い出多い山行だった。

## ●懇親山行案内

### ①越後シリーズの妙高・火打山

かなり楽な案に修正しました。皆さんの御参加をお待ちしています。担当幹事Ⅱ三井博

7月28日(土) 信越線妙高高原駅 13:30頃集合。川中島バス(またはタクシー乗合)で新赤倉温泉(泊)……まだ未契約です。

7月29日(日) 新赤倉温泉→妙高高原スカイケーブルで1266mまで一気に上がる。ロープウェイ山頂駅→天狗堂(2時間半)→妙高山頂(2時間) 黒沢池分岐(1時間の急降下)→黒沢池ヒュッテ(1時間)→茶臼山を経て高谷池ヒュッテ(1時間)(泊)  
7月30日(月) 高谷池ヒュッテ→火打山往復(3時間)→高谷池ヒュッテ→笹ヶ峰(2時間半) 入浴して妙高高原駅へ、車中で反省会。

燕温泉からの胸突八丁という急登の連続を避けました。

## 会務報告

### 針葉樹会臨時総会議事録

日時：2012年3月30日(月) 18:30～20:00

場所：如水会館14階 「記念室」

課題 高谷池ヒュッテは元来自炊中心のヒュッテですが、食事の提供もあります。ただし完全予約制なので早急に人数をまとめて予約する必要があります。既に28日(土)はキャンセル待ちの状態です。29日(日)は空きがあります。7月下旬は積雪は解けていますが、泥んこ道の連続です。費用はトータルで5万円程度

### ②丹沢・大山

丹沢・大山は人気があり、よく登られ、登り慣れた山です。それだけに登山ルートは多いのですが、実際登られているのは数本で、寂しい限りです。そこで今回は山岳部OB会らしく、他人のあまり歩かないルートを選んで登る事してみました。日帰りです。費用も電車で弁当代くらいです。ふるって御参加下さい。担当幹事Ⅱ本間浩

11月25日(日) ヤビツ峠→諸戸→諸戸尾根→大山→雷ノ峰尾根→見晴台→下社

出席者：竹中、三井、高崎(治郎)、上原、遠藤、名和、本間、小島、佐藤(久)、岡田、中村(雅)、宮武、前神、高崎(俊)

議題 創部90周年記念事業提案の件



結論 出席者13名全員の賛成、会長への委任  
状提出者51名、返信による賛成10名、返  
信による反対1名により、可決承認された。

#### 主な討議内容

◇事務報告：開催日当日の会員数152名の  
内、出席13名、ハガキ返信による出席62  
名、合計75名の出席。(総会成立のため  
は会員の1/3以上の出席、重要案件決定  
のためには出席者の3/4以上の賛成が必要  
とされる)

◇提案概要説明：竹中会長。3月26日に評議  
員会で開催された。議長を務められた佐藤  
さんに代わり、竹中会長が評議員会の結果  
概要を説明した。

◇提案内容の説明：小島チームリーダー

#### ◇主な質疑

(1) 賛助会費は、会の財務基盤強化目的で設定  
された。即ち、現在会費を納入する会員数  
は108名(54万円)、年4回の会報発行、  
慶弔費、通信費などで支出は約65万円。毎  
年約10万円の赤字になる。これを補填する  
ために賛助会費制度(一口1000円)が  
導入された。従って、賛助会費の全額を支  
出するのは妥当ではない。

↓今回は80%を記念事業資金として充当  
する。

↓一橋大学への「紐付き寄付」で寄附金を  
集める事も考えられる。

(2) 「針葉樹15号」発行のために賛助会費を募  
る。最低10口(1万円)を要請する。目標  
50万円。  
↓会長名で協力依頼文書を会員に送る。

↓「針葉樹15号」の広告料収入を見込み、  
広告取りに取り組む。

(3) 最終的に資金が不足した場合は、遭難対策  
基金(遠征基金)を取り崩して充たしたい。  
↓「遭難対策基金」の流用に関するルール  
を設ける必要がある。次回の総会に付議  
する。

↓基金を取り崩す場合は次回6月定例総会  
の承認を要する。

↓基金を取り崩した後は、その復元、拡  
充に努める必要がある。

↓昭和56年12月の臨時総会で遭難対策基  
金の利用規定が定まっているはずだが、  
きちんと会員に理解されているか疑問。

(4) 「山岳保険」への加入をアクティブ会員及  
び学生部員の義務とするべきである。

↓新しく保険担当幹事を設ける。各種の「山  
岳保険」を調べて、出来れば団体加入し  
たい。

以上

## 創部90周年記念事業進捗報告とお願い

### 90周年記念事業推進委員会

本年3月30日に開かれまして針葉樹会臨  
時総会において承認されました創部90周年  
記念事業の進捗状況を御報告いたします。90  
周年事業は会員の皆様のご参加・ご協力を考  
えて立案したものです。後述の通り、既に賛  
助金、事業推進等で多くの会員のご参加を得  
ていますが針葉樹会員各位の更なるご参加ご  
協力をお願い致します。

#### ◇進捗状況

(1) 「針葉樹15号」発行。推進責任者：岡田  
健志(昭42) 中村雅明(昭43)

本年12月中に全会員に届くよう準備が進  
んでいます。内容的には御承認頂いた通りで  
以下のようになります。

▽1985年～2012年までの一橋山岳部  
の活動

▽90周年を記念して

① 中村保会員のチベットのアルプス探査行  
の記録

② 一橋山岳会90年の年表

③ 一橋山岳部部員の在籍表

発行に要する費用は会員からの協賛金で賄  
いますが、広告も募集しており、この点で会

員の更なるご協力をお願いいたします。

(2) 富士登山。推進責任：三井博(昭37)、宮武幸久(昭45)、アドバイザー：佐藤恭(昭31) 以下の計画で準備が進んでいます。

▽日程 2012年8月5日(日)、6日(月)

▽行程 第1日：8時半 一橋大学正門前出発、12時頃 河口湖5合目、午後5時頃 8合目山小屋トモエ館

第2日：午前1時 山小屋発、山頂で御来光など楽しんで午前7時 下山開始、12時頃 5合目着、18時には一橋大学前に帰着

▽参加費(バス・一泊二食・保険)：学生9000円、針葉樹会員15000円

安全で楽しい登山になるよう強力な針葉樹会員の同行が期待され、既に10名ほどの内諾を頂いています。更に募集中です。

(3) 夜叉神峠周辺の登山道整備(旧芦安村活性化支援)。推進担当：本間浩(昭40)、中村雅明(昭43)、宮武幸久(昭45)、アドバイザー 上原利夫(昭33)

大先輩の小谷部さん、森川さん以来一橋山岳部とは縁の深い芦安村の活性化に資するとともに、針葉樹文庫を管理してくれている南アルプス山岳館に感謝して、夜叉神峠周辺の登山道を整備いたします。本件は地元「芦安ファンクラブ」と協力して針葉樹会の体力を勘案しながら複数年の視野で実施いたしま

す。針葉樹会員、学生のみならず、友人などのネットを通じて、一人でも多くの登山愛好家が芦安・夜叉神を訪れ、山道の整備・登山教室・自然教室などに参加して芦安を楽しむように呼びかけて行くものです。

芦安ファンクラブと相談の上、先ずは夜叉神トネル東口から高谷山への直進登山道の修復と高谷山から夜叉神峠への登山道整備を以下の日程で実施します。

第一回 6月16日(土) 17日(日) 各日午前8時半、南アルプス山岳館に集合

第二回 6月23日(土) 24日(日) 同上

芦安ファンクラブ会員及び地元有志に御参加いただけますが、できるだけ多くの針葉樹会員の御参加をお願いします。

(4) 賛助会費の状況

臨時総会の時に約50万円であった賛助金は、その後竹中会長からの依頼状に応じて、皆様方からたくさんのご協力を頂き、その後約70万円を超える上積が出来て、5月末時点で総額130万円に迫っております。今回の記念事業では、全予算130万円のうち協賛金約90万を予定しておりましたので、協賛金の本来の目的である針葉樹会の財政基盤強化の方にも役立てる事が出来る状態になっております。先ずは会員各位にご報告申し上げます。とともに厚く御礼申し上げます。

#### ◇お願い事項

上記の通り90周年記念事業は順調に準備が進んでいます。が、出来るだけ多くの会員にご参加頂き、90周年事業の主旨を全うしたいと考えております。5月の中旬にH.U.H.A.Cに載ったお願い事項を以下再掲いたします。宜しくご参加下さい。

#### ①「針葉樹15号」発行

針葉樹の発行につきましては、協賛金を利用させて頂きませんが、広告収入確保にも努力いたしております。会員各位のご協力が不可欠です。事業を営んでおられる会員には是非企業広告掲載をお願いしたいと思いますし、山小屋、スポーツ店、山関係出版社等に懇意にされておられる会員には是非勧誘・御紹介などお願いいたします。広告出稿料は以下を基準に考えております。

A5版全ページ 2万円

A5版半ページ 1万円

表紙裏・裏表紙裏 4万円

針葉樹15号発行責任者の左記まで御連絡  
お願いいたします。

岡田健志

TEL 0467-32-0789

F 248-0022 鎌倉市常磐937-53

e-mail birdiet-okada36@bp.t-com.ne.jp

## ②富士山登山

8月5日(日) 6(月)の富士登山については、安全登山を目指して、佐藤、竹中、三井、高崎(俊)、宮武、金子、前神さんなどの御参加をお約束頂いていますが、他に参加を御希望の会員の方は左記の幹事に御連絡下さい。学生参加者多数・御希望OB多数の場合は、御辞退お願いする場合がございますが、悪しからずご了承下さい。

宮武幸久

TEL 090-7410-9025

T 273-0115 鎌ヶ谷市

東道野辺5-3-25-13

e-mail mika-san@docomo.ne.jp

## ③芦安村活性化

夜叉神峠周辺の登山道の整備は人手を必要とする事業であり、昨年の上原先輩の御活躍でもわかりますように、針葉樹会員なら何方でもご協力していただける作業です。是非下記日程に御都合のつく方は御参加下さい。

第一回 6月16日(土) 17日(日) 前

夜泊にて、15日の甲府発18時バスご利用か、16日の9時10分甲府発のバスで芦安にお入り下さい。16日あるいは17日、一日のみの御参加も歓迎します。

第二回 6月23日(土) 24日(日) 要

領は16日17日と同様です。

宿泊費等御負担いただきますが多数の会員の御参加をお願いします。御参加いただける方は以下まで御連絡下さい。

本間 浩

TEL・FAX 045-544-6335

T 233-0053 横浜市港北区

綱島西2-14-1-503

e-mail honma-hiroshi@chime.ocn.ne.jp

## ④賛助会費

90周年記念事業は当初予算の範囲内で実施いたしますので、既に必要な額を頂いていますが、賛助金は学生活動支援など針葉樹会の財政基盤強化が本来の目的で御座います。予定しておられて振込みがまだの会員におかれましては、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

(文責：小島和人)

## 会員消息

2012年 針葉樹会 新年会 会員の近況

特別会員 鈴木羊三 相変わらず、元気で目医者をやっております。

昭和16年 深谷光茂 91才となりますが、どうやら元気に過ごしています。ご盛会をお祈りいたします。

昭和23 大島理則 高齢のため、夜の会合には欠席しておりますのでご了承下さい。本をよく読み、5000歩以上歩くなど、精神と肉体の老化防止に努めております。針葉樹会報は良く読んでおります。

昭和28 南昌宏 ここ数年來、山行にでかけることもなく、精々中樹会同期の昼食会に出席するのみです。盛会を祈ります。

昭和28 海老澤齊 小生自身は元氣ですが、中樹会も鹿俣氏が亡くなり5人になって寂しき次第です。

昭和28 西村勝 ご案内ありがとうございます。相変わらずの持病に加え、難聴が進み閉口しております。ご盛会と皆さまのご健勝を祈りあげます。

昭和30 石原脩 右膝半月板が、6月頃から原因不明の痛みを、下降時に伴うようにな

りました。夏から秋にかけて、大略毎日のトレーニングでかなり回復し、シーズン入りしたスキーには間に合ったようです。24年度の低い山にはお付き合い出来そうです。有名欧州スキー場は概ね滑り終り、今冬はドロミテに行く予定です。

昭和30 白川隆夫 もうハイキングも行けなくなっただけれど、元気でやっています。佐藤さん出席されたらよろしくお伝え下さい。

昭和31 石和田四郎 仲間に元気なのが居って、アップアップしています。間もなく80才、こんなに長い間?!とは想定外です。

昭和31 鈴木克夫 格別の悪いところもありませんが、年々体力が落ちて行く実感があります。新年会は已むを得ぬ所要の為に席とさせていただきます。

昭和33 中村保 東ヨーロッパでの講演旅行に出かけました。①ブルガリア・バンスコ (スキーリゾート) (11/22-27) Bansk Film Festival ②チェコ・プラハ (12/1-4) International Alpinism Festival 今回プラハでの海外講演は13ヶ国、27回目でした。

昭和33年岡垣治雄 出席する積りでいましたが、どうにもやりくりできず、甚だ残念です。低山を徘徊しています。

昭和33 新井慶司 1月24日は、地元の川越で、新年会の先約があり、残念です。毎日、やる事が多く、忙しく過ごしております。皆様に宜しくお伝え下さい。

昭和33 西海隼雄 特記事項無し。

昭和34 沢木一夫 体力の維持に汲々としています。

昭和34 市川陽一 毎回変わりばえのしない近況です。比叡山の麓に住んで34年、自宅が云わば京都北山の登山口の如きです。で、低い山ですがひんぱんに「山に入っています。又、雪どけを待って5月頃より年に3〜4回はアメリカの山にのんびりと出かけています。喜寿を迎えましたので無理は出来ません。

昭和35 丸子博之 先約行事と重なり残念、至極元気でず。

昭和35 小峰隆 元気にしております。

昭和35 中西巖 秋に、軽井沢・小諸・飯綱方面を楽しみました。黒斑山からの迫力ある浅間山・佐久盆地(高原)の展望、飯綱山からの長野(盆地)の展望等楽しい数日を過しました。

昭和36 有賀盈 昨今の寒波の後、松本市内からのアルプスの山並が一段と白く美しくなっています。いよいよ冬本番です。

昭和36 三股宏 昨9月末に、ヤロー会の連

中と上高地に行きました。天気に恵まれ、穂高の絶景を楽しむことが出来ました。囲碁は、調子が良く、4月に5段、10月に6段に昇段しました。今年は7段を目指したいと思っています。

昭和37 遠藤晶土 幹事の皆様お世話になります。日頃お目にかかる機会のない方々とお話するのが楽しみの会です。(公式行事は少ない方がよい)との意かな?)

昭和37 宮本英治 歳相応の低山登りをしています。2月：高水三山、5月：大菩薩峠(牛の寝返り)小菅、6月：甲州高尾山7月：浅間山、8月：爺ヶ岳(雨で鹿島槍断念)、10月：室堂、浄土山(吹雪で奥大日断念)、11月：八風山―神津牧場、倉岳山

昭和39年 蛭川隆夫 今年心臓の核医学検査、肺の精密検査などを医師から命ぜられました。これらはまあ年齢相応のことと観念。移住後あれこれ新しい挑戦テーマが出てきたのですが、とりわけ(人類・日本人・アイヌ・縄文文化・言語・日本語・アイヌ語などの)「起源」をテーマに、自宅や図書館で本や雑誌を漁っています。必然的に身体を動かさなくなり。これではいかんと今日は零下の中をわざと遠いスーパーまで歩いて買い物に行きました。そし



て、帰宅後、リフトを使わずに拙宅の6階まで登ったら、くたびれました！

昭和39 竹中彰 次第に東京多摩支部の活動と針葉樹会のイベントがバッティングすることが増えて来ています。色々考えたいと思います。

昭和39 村上泰介 馬齢もはや古稀のこの年末には南米ポリビアに出かけ、イリマニ山(6042m)を見上げて来ますが、さて、如何なりますやら。諸岳兄の益々の御健登をお祈りします。

昭和39 中橋寿雄 足腰不調ですが、何とか自適しています。盛会を祈ります。

昭和40 三森茂充 すっかり寒がりになりました。いい季節、九州の山なみも悪くない。チャンスを見つけたかと思っています。

昭和41 坂井益弘 ①お陰様で元気にしています。②箱根の大観山(1012m)に務めています。③横浜のランドマークタワー、東京の高層ビル群を望み、条件が良いとスカイツリーも望見出来ます。④霧と雲が発生する高度の為、(ア)宇宙人ならぬ霧中人となり、(イ)雲上人ならぬ霧中人となつて、頑張ります。⑤高い所から恐縮ですが、ご盛会を祈ります。

昭和41 池知昭洋 変わらず生きております。膝以外は悪いところもありません。

時々、福島にも行ったりしています。近々、石巻へも、と思っています。少し温かくなりましたら膝も良くなるでしょう。

昭和42 齋藤正 百姓しながら山へ登るといふのは相当に「ゼイタク」で、また大変だということを思うようになりました。近時腰を痛めて暫く「休憩」です。

昭和42 吉川晋平 今年8月、ツール・ド・モンブランを歩きました。

昭和43 中村雅明 黒部・薬師沢小屋の転倒の後遺症もなく元気で山登りをしていきます。

昭和44 藤原朋信 当日、関西滞在にて失礼します。2012年も健康で山歩きできるように頑張ってます。

昭和47 西牟田伸一 動脈硬化症が深刻です。昨年9月に手術して、血流改善を図りましたが、原因は複数あるようです。

昭和48 井草長雄 「日本の世界遺産」というシリーズ本の編集に取りかかっている多忙です。といつても週末の奥多摩通いは相変わらずです。針葉樹会報は2月に配布予定なので、新年会には出来ていませんので悪しからず、ご盛会を祈ります。

昭和51 前神直樹 新年会出席予定しておりましたが業務の関係でいけなくなりしました。申し訳ありません。今回学生の参加は

無理な様子です(試験が近いとかで)

昭和51 加藤博行 変わらず三条で元気にしております。新潟の山に興味ある方、お声をかけてください。但し、山は週末のみとなりますので、悪しからずご了解ください。

昭和52 兵藤元史 楽しみにしています。宜しくお願い致します。

昭和53 佐藤活朗 海外出張予定があり欠席します。

昭和59 稲毛尚之 昨年7月より神戸に勤務しております。日々、六甲山を眺めておりますが、なかなか足が向かわず、少々反省しています。

平成6 田形祐樹 伊勢に来て、1年半になります。お近くにお越しの際には、是非ご連絡下さい。

平成22 糟谷知紀 今は、富士通の川崎工場に働いています。昨年末は九州の阿蘇山に行き、火口近くまで登ってきました。

雑誌「アルプ」のこと・そして思う事

齊藤 正（昭42年卒）

かつて私達が充分若かった頃、『アルプ』という名の雑誌が登場しました。そしてたちどころに私達はその魅力に呑み込まれてしまいました。主宰者串田孫一をはじめ、尾崎喜八・深田久弥・畦地梅太郎など錚々たる人たちが創刊に加わり、山の詩や絵画、紀行文などを続々と掲載し、四半世紀後、刊を閉じるまで夢を与え続けてくれました。

『アルプ』という名は、私がとりわけ好きな詩人尾崎喜八が付けたものですが、彼はその名の解題で、こう言っています。「体験と知識によってよく成熟した山好きの心は詩人のそれであり、画家の目である」と。

我等が会報においても、登山記録に限らず、喜八が言ったような成熟した山好き連中の感得したもの何かの分配・交換に浴すること、それを披瀝しあうことは充分意義ある素敵な事だと思ふわけです。そうすれば確実に老齢化の進む会で、仮に山に行けなくても、輪に加わってくださる方は沢山おられることでしょう。これは会の財産でもありません。

山の歌集の事や懐かしい歌の紹介、山にま

つわる歴史的由来や街道論議、雷鳥の話など様々ありましたが、皆で語り継げば楽しいのではと想像します。

個人的には私は、柄にも無くここ数年俳句の魅力にとりつかれております。「あいつがね」という声が聞こえてきそうです。「山の俳句」という観点からすると、この分野も最近どんどん開発の途上……といえそうです。ウエブを調べるとかなりあり、百名山ひとつづつを俳句で詠むなどというのもあります（私の友人は百名山記録に短歌を付し、個人出版しました）。

旧くは福田蓼汀、岡田日郎、石橋辰之助、前田普羅などがこの分野の開拓に勤しみました。勿論、山口誓子は富士山を沢山詠みましたし、蛇笏・龍太親子、秋桜子にも山の句は少なからずあります。

ここでいくつかを紹介させていただきます。

秋風やいただき割れし燧岳 福田蓼汀  
岳更けて銀河激流となりけり 同  
髭白きまで山を攀じ何を得し 同  
秋雲一片残されし父何為さん 同  
神の山仏の山も眠りけり 同  
豪雨やみ山の裏まで星月夜 岡田日郎  
朝明の雲海尾根を溢れ落つ 石橋辰之助  
駒ヶ嶽凍てて巖を落としけり 前田普羅

敵父とす大雪山の照りかすみ 白田亜浪  
雪を渡りてまた薫風の草花踏む

河東碧梧桐

どんよりと利尻の富士や鯨群来 山口誓子  
羊蹄山誇りに歩み卒業す 湊元子

最後に定番を。

涼しさやほの三日月の羽黒山 芭蕉  
雲の峰幾つ崩れて月の山 同  
行く春やむらさきささむる筑波山 蕪村

三尊の坐す山遠く八重桜 拙句（鳳凰三山）

宮川守久（昭33年卒）会員から久保田  
禮治先輩についての消息

◇宮川会員から以下の手紙が本年2月届きました。

針葉樹会の会報編集発行ご苦労様です。  
毎々興味深く拝読いたしております。さて、  
2010年4月ごろ、横浜に在住されている  
三樹氏から針葉樹会事務局宛に、昭和6年卒

の針葉樹会員久保田禮治先輩につきご照会があったことが、針葉樹会のメール通信で流れ、偶々小生の会社における親しい先輩堀地史郎氏（昭和30年一橋大・商学部卒・元東京海上火災保険副社長）が同氏の女婿（久保田さんのご長女のご主人）であることから、堀地氏のご住所・電話番号を針葉樹会事務局にご連絡したことがあります。

今般、堀地史郎氏から、三樹和博氏の大変な力作『津久井湖に育った植物研究者、久保田禮治の足跡をたどる』（相模原市立博物館研究報告）のコピーを送って頂きました。我々後輩として、久保田先輩が歴史と伝統のある八王子織物業界を代表された経営者として御活躍になられたことは存じ上げておりましたが、学生時代から牧野富太郎の薫陶をうけられた該博な植物研究者として専門家領域に詳細な足跡を残されていることを知り、深く感銘した次第です。

昨今、針葉樹会員諸兄の山行報告や月例会の席上でも、山の植物談議が活発になされている様子を拝見し、久保田先輩の業績内容は是非針葉樹会報誌においても掲載し、会員各位に御紹介いただきたいと思ひ御連絡した次第です。（なお、御遺族も針葉樹会事務局への連絡用としてコピー一部ご送付いただいています。）草々

#### ◇会報幹事から

宮川会員から送られた『津久井湖に育った植物研究者、久保田禮治を足跡をたどる』のコピーは針葉樹会報の限られた紙面の都合から今回掲載しませんが、一橋山岳会のホームページに転載することを準備中です。コピーは会報幹事が持つていきますから何時でもそのコピーを送れます。ご希望の会員はお申し出下さい。三樹和博、秋山幸也氏の共同作品であるこのレポートは津久井の根小屋地区の大尽・久保田家の12代当主として明治41年に生まれた久保田先輩の生い立ちから学生時代のアマチュア植物学者時代の植物標本収集ぶり、その標本の所在、標本の価値などに言及していて、宮川会員のご推薦のとおり、植物に興味のある会員には勿論、針葉樹会員には大変興味深い久保田先輩の記録になっています。この会報では以下の一部の引用に留めさせていただきます。

「これまで触れなかったが、禮治氏の学生時代の先行はドイツ哲学であった。ドイツ歌曲をはじめとした音楽の世界にもかなり造詣を深めていたことが、その影響を享受された長女の堀地友子氏から伺うことができた。実業家であり、アマチュア植物学者、そして、芸術への造詣の深い文人としての横顔。久保田禮治という人物像の奥深さを改めて感じ取る

ことができる。」

#### ◇宮川会員からの2度目の手紙

再三煩わして恐縮ですが、このたび故久保田禮治先輩のご長女堀地友子さまよりお手紙を頂戴しました。この歌は山岳部時代の山の愛唱歌だと云われ、久保田先輩から子供たちは随分聞かされ思い出があり、懐かしくなつて記憶を辿りながら採譜してみたとのお話でした。

また、山岳部同期の磯野計蔵、手塚晴雄、金田一郎の諸兄と久保田先輩は生涯の友として家族ぐるみのお付き合いがあったことです。この5月には、久保田先輩の三十三回忌が予定されておられ、今回の針葉樹会関係の連絡により感慨深いものになると喜んでおられました。

採譜された山の歌（？）は我々の時代には「麗しのメツチェンに山で会ったなら、Ist liebe dich so untrübe wie Kitzsen schneidich」という歌以外思い当たりませんが、ご遺族から針葉樹会の古いOBの方々のご存知の歌かと思ひ送りますとお話でしたので、月例会の席上でも諸兄にご披露頂ければ幸いです。草々

# マイ ワイフ

作詞者不明  
作曲者

手拍子と打つように一拍目に力を入れて、日本語的発音で"

1 マイワイ フ二二 マイワイ フ二 シーイスト  
エ マイネフラ ツェー = マイネフラ ツェー ズィーイスト

オンリー シックスティーン ビューティフル ビューティフル  
又 ルゼヒツェーン シエネスト シエネス

ルー アイラブハー、シィラブス  
トー イッヒリーベスィー、スィーラブト ミッヒ:

アイゴーホーム、ハルツスィー、ハー、フーヴザント  
イッヒゲーフッハ、ハルツゼ、ズィーツ、ゼン、アンゲネム

フーヴザン トー  
アンゲネム

1. My wife, my wife, she is only sixteen.  
Beautiful, beautiful....  
I love her, she loves me.  
I go home to see her.  
Pleasant, pleasant....

-2 Meine Frau, meine Frau, sie ist nur sechzehn.  
Schönest, schönest....  
Ich liebe sie, sie liebt mich.  
Ich gehe nach Hause sie zu sehen.  
Angenehm, angenehm....



## 三月会通信

■平成24年1月16日■

【出席者】佐藤、上原、三井、遠藤、蛭川、竹中、本間、小島、佐藤（久）、岡田、中村（雅）、金子、松尾（信）、高崎（俊、記録）

▽今回も前回と同様、開会前には、「90周年記念事業」計画の打ち合わせが行われていました。企画論議も佳境に入っています。「針葉樹15号」の発行、登山道を整備して芦安地区活性化への協力、学生を勧誘して「富士登山」など。

▽久しぶりに、札幌から蛭川さんが参加されました。詳しい近況報告を期待したのですが、「寒い、食い物が美味い」だけに留まりました。「会報に寄稿するからそれまで温めておく」そうです。今は北国で、ゲレンデ・山・クロスカントリーとスキーを楽しんでいるとのこと。半世紀近く前、「やつと滑った5メートル、これが悩みの〜」というスキー賛歌がありました。「ヨ、ヨ、ヨッ、ホッホー！」と大声で歌われた姿が思い出されます。妙高・笹ヶ峰でのスキー合宿の時でした。

▽アダージオの松尾さんが「八ヶ岳スーパートレール」の案内書を持って出席されました。今年5月下旬の懇親山行に組み込む予定があります。武田信玄が軍用路として開発したとされる「棒道」をひたすら歩いて温泉に浸かろう、というコースも一つの候補になっています。

▽また、松尾さんによれば、今年の冬は北からの野鳥がバツタリ来なくなっているそうです。昨秋、木の実は豊作であったにもかかわらず、ハギマシコ、オオマシコが姿を見せてくれない、アダージオの名物だったのに、地震・原発の影響だろうか？ 井の頭公園に飛来する野鳥の種類・数も例年に比較して少ないようです。人間よりも自然の変化に敏感な鳥たちの事ですから、日本は住み難くなったと感じているのかも知れません。

▽「野鳥」の話題では、当然ではありませんが、我が「一橋山岳会ホームページ」にも会員以外の方々のアクセスがあります。今回は中央アルプスで「雷鳥を見た」という三井さんの記事に、上伊那郡の中学校の先生から反応がありました。結論的には、「現在、上伊那郡誌自然編の改訂版執筆のために調査を開始しているが、生息情報とはしないつもり」という意向の様です。宝剣岳・中

### ◇会報幹事から

宮川会員のお手紙には掘地友子さんから宮川会員への手紙と譜面が同封されており、さらに4月宮川会員経由で譜面修正の手紙が届いています。今回は最新の譜面を掲載させて頂き、4月の掘地さんのお手紙から以下の部分を紹介させて頂きます。『私が大学でドイツ語を習い出した時、父より一二度口頭で教わっただけですが、いかにも学生が好んでふざけて歌ったらしい曲で馴染易くすぐ覚えられました。1954年のことです。』『亡父は1908年に生まれ、昭和6年商科大学卒業なので同年代の方は既に逝去され、山岳部で歌われていたか確認不能ですが、ドイツ語を1-3年吹田助教授に、ゼミでは経済学方法論を杉村助教授より学び、たとえそこで憶えたとしても山岳部に持ち込んで歌ったはずです。ドイツ語を覚えたばかりの学生が山行で好んで歌ったと思われず。』

岳に登山される方は注意して観察してみてください。

▽東京タワーに代わる電波塔(スカイツリー)の高さが634mでムサシ(武蔵)に因むようですが、この「ゴロ合わせ」をネタに遠藤さんが日本の山を探られました。日本国内の標高634mの山は? 弥彦山(新潟県西蒲原郡弥彦村)、坂戸山(新潟県南魚沼郡)、天蓋山(新潟県村上市)、岩殿山(山梨県大月市)、矢滝城山(島根県太田市)、飯綱山(長野県上水内群信州新町)等があります。史実に富んだ錚々たる山々が集まっています。また、信州には「いいづな山」が「飯縄山」を含めると五つもあるそうで、「いいづな」とは何か? と問題提起をされました。何方かご存知でしょうか?

### ●山行記録

佐藤 1/8 棚横手、甲州高尾山。本間さん、久さんの下見山行に参加。山麓の駅の幾つかの近くには「飲み屋」がないのは困ったことだ。  
三井 なし  
遠藤 なし  
竹中 12/27、28丹沢、塔ノ岳、鍋割山、熊木沢出合、ユースン玄倉林道。昼から会忘年山行。鍋割から熊木沢が核心。

1/14 多摩センター、鶴川(一部よこやまの道も)如水会町田支部歩こう会行事

本間 12/27、28竹中さんと同行  
1/8 甲州高尾山、棚横手  
3/4 懇親山行の下見  
蛭川 所用で状況の折、寄らせてもらいました。今シーズン、クロカン・スキーとゲレンデスキーに各1回行きました。

小島 なし  
高崎 なし  
金子 12/23、25 鳳凰三山  
松尾(信) カシガリ山(1620m)。茅野付近の古東山道をトレースする過程で見つけて登ってみました。反対側はもう霧ヶ峰でした。

### ●山行計画

三井 2/1 宝登山。一橋同期の友人と  
遠藤 なし  
竹中 1/22 平地歩き、相模原基線を歩く  
2/18 入笠山スノーハイイク。JAC東京多摩支部行事  
本間 1/29 二十六夜山。藤原組山行  
2/18 奈良倉山 同上  
小島 なし  
高崎 なし  
中村(雅) 1/29 秋山二十六夜山、赤

鞍ヶ岳。藤原、佐藤、宮武、本間、中村の5人

2/18 奈良倉山。藤原、佐藤、本間、中村の4人  
金子 2/10、12 尾瀬。北義経会

### ■平成24年2月20日■

【出席者】(上原)、三井、遠藤、竹中、本間、中村(雅)、宮武、高崎(俊)、記録)

▽「ニッパチ」には該当しないと思うのですが、参加者は7名と少し寂しい三月会になりました。常連の佐藤さん、高橋さん、小島さん、佐藤(久)さん、岡田さん、金子さん等が顔を出されませんでした。

▽90周年事業の準備も佳境に入り、各企画それぞれ詳細の論議が始まっているようです。特に「針葉樹文庫」の創設に関して多大な協力を頂いた、旧芦安村の「芦安山岳館」および「芦安ファンクラブ」との活動には熱が入っています。また、山岳部員(学生)を勧誘するための方策の一環として、現役学生を引率して富士山に登る計画も各論の検討に入っています。学生の試験・夏休みの日程を考慮して、8月5・6日(土・

日)に行われる予定です。早朝、国立をバスで出発し八合目に1泊、翌日、登頂して下山後、国立までバスで帰る、という計画です。

▽今週末の25・26日の土・日曜、前神さん以下が現役学生部員(2年生の町田・小宮山の両君)を引率して、雪山訓練山行を蓼科山で実施する計画があります。OB諸氏の協力もあつて、冬山装備は一応揃つたようです。もちろん「山岳保険」にも加入しています。無事に登頂し、成果が上がるよう期待します。なお、沢木さんから学生に「ワカン」が寄贈され、部屋に届けられました。

▽「登山を楽しくする科学」というフォーラムが日本山岳会の主催で開かれます。3月10日(土)立正大学 大崎キャンパスで13時~17時。演題は「地図の読み方、楽しみ方」、「登山中の病気とトレーニング」、「空が教える山の天気」です。

▽「展望の山50選、関東編」という本が紹介されました。「絵図で楽しむ山岳パノラマの世界」という副題のように、山頂等からの展望が、スケッチで紹介されています。山の同定には役に立ちそうです。東京新聞出版局の発行です。

▽遠藤さんによりますと、「神社検定」が今年

から始まるようです。試験は6月3日、申し込みは5月10日まで、となっております。我と思わん方は是非トライしてみてください。

▽2月初旬には、遠藤さんが案内役となり、三井さん以下37年卒の同級生十数人を引き連れて秩父の宝登山(標高497m)に登られたそうです。コースは長瀨駅から登り、野上駅に下る、というもので、頂上直下には有名な「蠟梅」林がありますが、今年の開花は遅れているようです。落伍者も無く、湘南高校出身の同期生4人とも卒業後初めて再会出来たなど、十分楽しめたそうです。

#### ●山行記録

三井 2/1 宝登山。同級生十数人と  
遠藤 2/1 宝登山。長瀨駅から宝登山、野上駅に下山。同級生十数人と  
竹中 1/22 相模野基線を歩く。東京多摩支部町田サロン企画。高尾山(すずかけ台)~南町田~相模原。中間点と北端点を確認し相模大野解散。  
2/10 藤沢本町~大庭城址~大和。引地川沿いを歩く。如水会町田支部歩こう会事業に参加。  
本間 1/29 秋山二十六夜山。佐藤さん、中村(雅)さん、藤原さんと。雪のため、

先の赤鞍に進めず、四方津に引き返す。

2/18 奈良倉山。先日雪降るも計画通り奈良倉山から西原峠へ。松姫温泉に下る  
中村(雅) 2/14~15 葛温泉から葛沼往復。家内と二人、2台目のスノーシュー使い初め。

2/18 奈良倉山(藤原組山行)。佐藤さん、本間さん、佐藤(久)さんと4人(藤原さんは反省会に合流)  
宮武 2/11~12 雲取山  
高崎 なし

#### ●山行計画

三井 3中 懇親山行(甲州高尾山)  
遠藤 3中 懇親山行(甲州高尾山)  
竹中 2/24~26 北海道スキー(チセヌプリ、シヤクナゲ岳)。小野さん企画の恒例のスキー行。ニセコ雪秩父泊。  
3/3~4 草津白根スキー登山。東京多摩支部行事、ゲレンデ+α  
3/11 草戸山。町田サロン企画  
本間 2/24~25 丹沢・塔ノ岳。尊仏山荘で「昼から会」新年会  
3/14 大野山。「神稜会」の山行下見  
中村(雅) 3/4 懇親山行(甲州高尾山)  
3/21 入笠山。藤原さんと2人、スノーシュー

3 / 23 ~ 25 上高地。家内と2人(スノーシュー)中の湯から往復

宮武 なし  
高崎 なし

■平成24年3月19日■

【出席者】 佐藤、上原、三井、遠藤、竹中、本間、小島、佐藤(久)、岡田、中村(雅)、宮武、高崎(俊、記録)

▽この日も16時から小島さんを中心に、「90周年記念事業」企画について熱心な議論が展開されていました。資金計画をどうするかは頭痛の種でしたが、「賛助会費」もそこそこ集まり始めて、何とか先が見えて来たようです。

▽桃の木鉱泉の宿が芦安村の同業者と一緒に「活性化」に協力すれば、全体の動きも活性化するであろうに、がきっかけて、「秘湯の会」(正式には「日本秘湯を守る会」)の話になりました。東京都では、唯一、檜原村数馬の「蛇の湯、たから荘」だけです。山梨県では、「桃の木鉱泉、別館、山和荘」、「奈良田温泉」の他に3か所、全部で5か所あります。嵯峨塩温泉は外れたようです。

団体客を取らず、ピンポン台もなく、カラオケも置いていない静かな宿を楽しむことが出来ます。全国には190あるそうです。最近まで、集客対策として、全国で「ポイント」制(スタンプを10個集めれば1泊無料)が採られていましたが、現在では、北海道地域のみに限られたキャンペーンになったようです。

▽2月末に北海道(チセヌプリ、シヤクナゲ岳)でスキーを楽しまれた竹中さん、千歳空港が吹雪に襲われ、飛行機が大幅に遅れ羽田に着陸した時には、既に公共交通機関の運行は終了、大枚はたいてタクシード帰宅されたとか。「北海道でスキー」に行けなかった者の僻みでした。

▽宮武さんが、今年の新入学生勧誘の為にと学生と一緒に作ったポスターを持参されました。候補として、背景が「ヒマラヤの雪山」と「秋の尾瀬ヶ原」の二つがありました。ロートルは、「尾瀬の景色は、大学山岳部にはなじまない」が圧倒的な見解でしたが、現役学生部員によると、現代の学生には「険しそうに見える雪山の景色」は受けないそうです。時代も人も変わったものです。(ところで、昔の部室の方向から、現部室に向かうと、景色が大幅に変わりました。手前に空手部の大きな部室が新しく完成

し、我が部室はこの建物に隠れて遠くからは見えなくなっていました。)

▽前期の小平時代、トレーニングで良く走ったものだ、津田塾を往復したとか周回したとかの話から、玉川上水について、羽村の取水口からどこまで流れ、どの川に合流するのか? 玉川兄弟によって開通した時には、四谷大木戸まで通水されて、そこから分流されたが、今は高井戸の辺りで暗渠化され、新宿御苑付近で隠田川に合流し、澁谷川、古川となって東京湾に注いでいる。玉川兄弟は、この工事の功績で「玉川」姓を賜った。取水する「多摩川」と「玉川」との関係をご存知の方は、名前の由来を教えてください。

▽その昔、多摩川を、是政から河口までゴムボートで下ったOB3人組がいたそうです。途中、宿河原堰付近で、水道局の係員から「水量が多く危険だから上がれ」の指示を受け、ボートを畳んでタクシード少し下流まで移動し、再びボートを膨らまして羽田の河口まで下降した。高度成長期で水質が悪かった、羽田の穴守神社付近が大祭で賑やかだったとか。

▽旧芦安村の恩賜林が県有林となった由来から、島崎藤村の「夜明け前」の話に及び、木曾の国有林は江戸時代には「入会」が許



されたが、明治維新後、「入会権」が明治政府によって取り上げられた為、薪も取れなくなり、農村の疲弊が進んだ、という話がありました。中山道を歩かれる「オーション会」の方々が、その辺の事情を説明される様です。

▽今回の「富士山講座」は、水にまつわる富士山の写真から、撮影場所を特定する問題が18問出されました。殆どが講師自身の撮影された写真でした。難問が多く、受講者は苦労しました。

▽部員（学生）勧誘・富士登山用のポスターに使う（夏の）富士山の写真を、宮武さんが探しています。雪を冠った富士山の写真は比較的簡単に手に入りますが、雪のない富士山の写真が見付からないそうです。何方か提供頂けませんか？

### ●山行記録

佐藤 3/4 懇親山行（甲州高尾山）  
三井 3/4 同上  
竹中 2/24～26 ニセコ・チセヌプリ山スキー。小野さん企画、蛭川・川名さん他と。チセヌプリは登頂、シヤクナゲ岳は今年も未登に。  
3/3～4 草津国際スキー場。多摩支部懇親スキーに参加（家内、次女、孫と）

本間 2/24～26 丹沢塔ノ岳。「昼から会」新年会

3/4 懇親山行「甲州高尾山」  
3/14 大野山。「神稜会」下見、湯本平ルートを登る。岳人向

佐藤（久） 3/4 懇親山行（甲州高尾山）  
中村（雅） 3/4 懇親山行（甲州高尾山）  
3/12 入笠山（スノーシュー）。藤原さんと2人。ロープウェイ駅から1時間で頂上。スノーシュー入門コースとして最適。  
宮武 なし  
高崎（俊） なし

### ●山行計画

上原 4/12 兜山  
三井 なし  
竹中 4/14～15 雲取山。JAC三支部（山梨、東京多摩、埼玉）合同懇親山行  
本間 3/27 要塞山、兜山。藤原組山行  
4/9 コナラ山（小橋山）。藤原組山行  
佐藤（久） なし  
中村（雅） 3/22～24 上高地（スノーシュー）。家内と2人、中の湯から往復  
3/27 要塞山・兜山  
4/9 小橋山。藤原組山行  
宮武 なし  
高崎（俊） なし

### ■平成24年4月16日■

【出席者】三井、遠藤、竹中、佐藤（久）、中村（雅）、小宮山（学生3年）、町田（学生3年）、高崎（俊）、記録）

▽常連の皆様の出席が少ない中、三月中旬には画期的な日となりました。現役学生部員が二人参加してくれたのです。もう一人入部希望者（峯さん）がいるようで、頼もしい限りです。大学での部員勧誘活動は、現在では、6月に入ってから本格化するそうです。昔から大勢の部員を集める端艇部の他に、最近はラクロス部（全国大学4位の実績があるとか）、アメリカン・フットボール部等の人気が高いようです。これらの部にいったん入部したものの、合わない・長続きしない連中が次の部活動候補として探し始めるのが6月に入ってからになるとの事です。

既に、学生さん達は前神さんの指導の下、雪上幕営、雪山登山にも参加し、前途が期待されます。8月末には、国立登山研修所の「大学生登山リーダー夏山研修会」で指導を受けるため立山・剣沢での訓練にも参加の予定です。また、前神さんが中心となつて、8月の穂高・酒沢にテントを設営し、

学生・OBの合同合宿(?)をやるという計画が進んでいます。

▽体育会系のOB会で、年会費が1万円を切っているような部はない、との話が聞かれています。1〜3万円/年が平均的なようで、針葉樹会の会費は低すぎるのかも知れません。現役(学生)部員が増えてくるとか、定期的に会報を出し続けるとか、を考えると、今以上の収入が必要になってきます。「賛助会費」制度が導入されましたが、会費を値上げするとすると、簡単に実現するとは思えません。皆様のお考えは如何でしょうか？

▽中村(保)さんが中心になって進めている、海外に向けての情報発信メディア「JAPANESE ALPINE NEWS」の最新号(Vol.13, 2012)が発刊になりました。竹中さんが持参されました。何時もながら、美しい写真が表紙を飾っています。

▽金子さんから5月の「懇親山行」の計画の概要が発表されました。八ヶ岳スーパートレイルの第2弾で、第7エリア、小海線の甲斐大泉の北にある天女山から三つ頭登山口までのコースです。5月26日・27日です。

▽先般の懇親山行「甲州高尾山」の「高尾山」の話、あのナイフリッジは修験道の対象

だったに違いないの話から、最近では老若男女で混雑する一番身近な八王子市の「高尾山」、すずかけ台にある「高尾山」(山頂に一等三角点、標高1000m、隣に飯縄神社がある。東京工大のキャンパスの直ぐ南側)、また京都の「高雄」との関係は何か？が問題提起されました(遠藤さんの専門分野です)。

また、日本全国の三角点網は相模野基線を基点として作られることになりましたが、その最初の測量は、東の長津田村三角点(横浜市緑区長津田町 高尾山頂)と、西の高尾山三角点(厚木市棚沢 高尾山頂)との相対的な位置を三角測量により求め、だったそうです。

▽最近の山の装備品は良くなっている、昔のビニロン天の重さ(氷が張った後のパッキングは大変だった)に比較して、最近の第2世代ゴアテックスの軽さ・利便性はどうか! ただし6人用で15万円を高いと思うか安いと思うか? 山本健一郎さんの遺品、米国製6人用天幕は安定感は大きいが6kg。今夏、涸沢に上げましょう。

▽アダージオの松尾さん、金子さんが岡山に移住されるかも知れない、という話から岡山人は賢い、そもそも「桃」が食用として日本で広まったのは明治以降であり、桃太

郎伝説と共に岡山産の白桃をあんなに有名にしました。という遠藤説が披露されました。

この説に対して、「鬼退治は古代インドの「ラーマヤナ」に発し、「鬼が島」は今のスリランカである、との説も披露されました。また宿題が増えました。

### ●山行記録

三井 なし

竹中 4/9 小楢山(塩山)父恋路(頂上)

母恋路)。藤原組の平日山行。メンバー

は佐藤、仲田、竹中、本間、藤原、中村(雅)。

天気恵まれスムーズに登るが、花には早く、霞がかかって、展望はイマイチ。

4/14〜15 日本山岳会東京多摩支部/

さいたま/山梨三支部合同雲取山集中登

山。学生時代以来50年ぶり?の雲取山、全

く忘却の彼方。

4/14 八王子からマイクロバスで小袖

まで入る。前半雨、途中から雪の中、登り

5h40mで頂上。山荘着15:17。

4/15 朝は一面の銀世界。快晴の下で富

士山始め奥秩父・小金沢連嶺・南ア・丹沢

等の大展望を楽しむ。帰路は七ツ石山を

回って、15:00鴨沢バス停。

高崎(後) 4/4〜5 八ヶ岳・硫黄岳。

佐藤さんのお供で。4日、美濃戸口から歩き、赤岳鉱泉泊。5日、計画は赤岳登頂だったが、直前の「爆弾低気圧」の影響で天候悪化のため硫黄岳に転進。深雪と霧に祟られ、赤岩の頭の稜線直下、ホワイトアウトで敗退。翌日の予備日、赤岳に再挑戦の試みも考えられたが、結局はアダージオに避難。

佐藤(久) なし

中村(雅) 3/27 要害山・兜山。藤原組

山行。(佐藤、藤原&同婦人&女性友人)

4/8 阿能川岳。藤原さんと一緒。水上からタクシーで登山口へ(10分位)。頂上

からの展望は圧巻(感激)。4月の初旬に行くのがベスト。スノーシュー、アイゼン持参すれど使用せず。1カ所ザイル使用した。

4/9 小橋山。藤原組山行。(佐藤、仲田、

竹中、本間、藤原、中村)

金子 4/7~8 八ヶ岳、権現↓赤岳↓美

濃戸。北義経会の仲間と3人で決行。全くの冬山で厳しかった。

### ●山行計画

三井 なし

遠藤 4/25 岩殿山。同期のハイキング会

で城を見るのが楽しみ。

竹中 5/18 高水三山

5/19~21 雲取山~東日原 東京多摩支部平日山行。どちらか

佐藤(久) なし

高崎(俊) なし

中村(雅) 5/22 高原山。藤原組山行

金子 5/3~5 剣岳

### 『針葉樹』15号発行について

今年12月中に会員あてに届けられるよう準備中です。

内容的には、

1. 1985年~2012年までの一橋山岳部の活動

2. 創部90周年を記念して

2-1 中村 保会員のチベットのアルプス探査行の記録

2-2 一橋山岳会の90年の年表

2-2 一橋山岳部部員の在籍表

を予定しております。

なお、発行資金を支援するため、会員からのご寄付をお願いするほか、広告掲載もお願いすることとなりました。周囲の方をご紹介いただければ、お願いに上がりたいと思います。

### ■会費納入のお願い

平成24年度の会費納入をお願いいたします。なお、昨年の総会で納入額が変更になりましたので、ご注意ください。

会費(普通会費)は卒業年次に関係なく、一律5000円です(ただし、昭和29年度以前卒業の会員は従来通り会費免除となります)。

また、普通会費のほか、期間を問わず賛助会費を募集しております。賛助会費は一口10000円で、口数は任意です。今年は90周年事業を計画しておりますので、その資金手当てのためにも、賛助会費へのご協力をお願い申し上げます。

▽会費納入先の銀行口座

銀行 行：三菱東京UFJ銀行

赤坂支店

口座名：針葉樹会

口座番号：普通 4825647

\*振込む際、摘要欄にお名前(卒年次)をご記入してください。

会計幹事 佐藤久尚 高崎俊平

◇昨年の春にヤロー会（昭36卒）の山本・中川先輩が病死されてからこの春に大先輩の佐藤政雄先輩（昭17卒）が亡くなられるまで、この一年まことに沢山の重鎮先輩がご逝去されたように思います。今回追悼文が届いた中樹会の鹿保先輩もその一人です。会の力が衰え行くような寂しさを感じますが、一方で今年の90周年にあたり会員諸兄からの賛助金は軽く100万円を超えました。会員の皆様の熱い気持ちを強く感じた次第です。

90周年は会員参加による一橋山岳会の再活性化を中心テーマにしておりますが、会報も多くの会員にご参加いただくために【会員消息】という欄を設けました。斉藤正会員のご提案からヒントを得たものです。丁度タイミングよく宮川守久会員から久保田禮治大先輩に関する寄稿があつて助かりました。今後も積極的に、山のこと、趣味のこと、植物のことなどご寄稿頂きたく思います。

（小島）

◇今年はおさびの苗が入手難で、まだ植え付けが済んでいません。田んぼ4枚ぶん、千本ぐらい、一日の作業で済む量なんですが……。なんでも苗産地の伊豆での生育が良くないとかで、奥多摩中のわさび栽培家が困ってます。仕方ないから、株分けした苗を使ったり、秋に植え付けをするかという話も出ています。ところで、奥多摩駅から近いわれらがわさび田のあたりには時々、カモシカが出没します。この春には網の破れ目から入られて、若葉を食べられてしまいました。イノシシはわさびは食べませんが、

沢ガニを捕ろうと石垣を崩すので、防護ネットは必須です。サルもいますが、彼らはわさびには目もくれないので助かります。クマはさすがにこの辺までは出てきません。

（井草）

◇靴は大事といわれますが、靴の中敷も大事だと、最近、再認識しています。針葉樹会の中でも、こだわりをもっていらつしやる方は多いのではないのでしょうか。私の場合、きつかけはスキー靴でした。フィット感を高めるために「スーパーフィット」という中敷を薦められ、専門店です。望ましいかかり方ではないことがわかりました。普段用の靴にスーパーフィットを入れて、立ったり歩いたりしたところ、意識しなくても骨盤が立ち、背筋が伸び……。昔、左右の体のゆがみを整体師に指摘されたことを思い出しました。そういえば中敷を変えたら膝の痛みが治まった話も聞いたことがあります。

「たまにしかはかないスキー靴より、普段の靴にもっと気をつけるべきだな」と思いましたが、その場では切って合わせるタイプをスキー靴のために購入。普段靴用はオーダーしがなく、値段も高いので思案中です。膝や腰に違和感があるけど病院に行くほどではないという方や、普段からよく歩かれる方、もちろん登山靴用にも、お試しになる価値があると思います。登山用品店にも置いてありますが、専門店のほうがいいかもしれません。その後、スキー靴のほうは力が伝わりやすくなりました。

（川名）